

## 小笠原航空路開設推進特別委員会速記録

平成31年3月12日（火曜日）午後2時開会

### 出席委員（6名）

委員長	一木重夫君	副委員長	清水良一君
委員	稲垣勇君	委員	杉田一男君
委員	鯉江満君	委員	安藤重行君

---

### 委員外出席議員（1名）

議長	池田望君
----	------

---

### 出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課副参事	杉本重治君	総務課企画政策室長	樋口博君
財政課長	江尻康弘君	村民課長	村井達人君
産業観光課長	牛島康博君	環境課長	岡島一徳君
建設水道課長	繁藝則仁君	建設水道課副参事	岩本弘幸君
母島支所長	湯村義夫君	教育課長	持田憲一君

---

### 事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

## 議事日程

日程第1 小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について

日程第2 その他

日程第3 閉会中の継続調査について

---

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから小笠原航空路開設推進特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午後2時）

---

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

---

◎説明員の出欠について

○委員長（一木重夫君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会の説明員は、全員が出席との通知がありました。

以上でございます。

---

◎小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について

○委員長（一木重夫君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、12月定例会以降の小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） それでは、前回の委員会以降の経過報告、今後の対応につきまして、ご報告をさせていただきます。

まず1点目が、陳情活動その他でございますが、村長の陳情活動としまして、2月28日、東京都の総務局行政部長及び、多摩島しょ振興担当部長を訪問し、調整をしております。

2点目に、来島視察でございますが、1月9日、国土交通省大臣官房佐竹審議官が来島されまして、候補地洲崎をご視察されてございます。

2番目の報告といたしまして、東京都に関することでございますが、1点目、平成31年度の航空路関係の予算でございます。平成31年1月25日に予算概要の公表がございました。その内容を拝見し、かつ聞ける範囲で内容についてお聞きしました。平成31年度の小笠原航空路に関する調査費としまして、総額4億9,000万円計上されているという状況でござい

ます。また調査の概要でございますが、毎年港湾局あるいは総務局で実施されております、たとえば就航機に関する調査、あるいは自然環境の調査、そういったものは継続されると聞いておりますが、それ以外で来年度新規で上がっている内容について、お聞きした範囲で報告させていただきます。

全体としましては、小池知事が昨年おっしゃったとおり洲崎を前提としているところでございます。

まず1点目が基本的な調査でございます。一つは安全性の検証に関する調査、それから地質の調査、いわゆるボーリング調査を陸域・海域で行うということでございます。また測量調査、これは海の中も含めまして、陸域と海域の測量調査を行う。もう一つ気象・波浪の観測調査ということで、気象調査は過去も行われております。平成19年から3年間かけて行われておりますが、データとしましてはもう相当古いデータでございます。今後の具体的な検証のために改めて来年度から3年間気象観測を行うというふう聞いております。

それからもう1点、環境影響に関する調査でございます。洲崎を前提としました時に、洲崎周辺の海域の流向、それから流速、水質調査関係を行うというふう聞いてございます。

予算関係は以上でございます。

2点目のご報告でございますが、国と東京都の実務者協議会が設置され、開催されてございます。設置に至る経緯でございますが、国の方の税制改正に伴い東京都の税収が減る見通しとなったことから、東京都の重要施策につきまして、国が最大限協力する観点から、国と都の実務者による協議を行うことになったという経過でございます。これは平成19年から平成25年、当時石原知事でしたが、その時にも過去1回6年間にわたって同じような協議会が開催されている経過がございます。協議会の構成でございますが、添付で資料1をご用意させていただきました。これは国が公表している資料でございます。内閣官房長官の決済ということで、1月25日付けでございます。協議会そのものの議長、仕切り役としまして、内閣総理大臣の補佐官、和泉補佐官が議長になり、国それから東京都、それぞれ要望事項に関連する役職の方々が構成員となっているという状況でございます。それから協議をする内容でございます。これにつきましては別添の資料2にご用意させていただきました。これも国の方から公表されているものでございます。今回の協議会の設置にあたりまして、東京都からは8項目、20施策について国と協議する事項として挙げておられ

ます。その中でも重点事項と一般事項に分かれているのですが、重点事項の上から3つ目、小笠原航空路の整備促進というものが東京都から国との協議で重点事項として挙げられてございます。会議の開催状況につきましては、報道されているところで読みますと、年に1回から2回程度で今後開催される見込みとなっております、第1回の会議が、平成31年1月28日に開催されております。その際の内容につきましては、初めての開催ということで、協議事項に関する東京都からの説明があり、それを踏まえて国と東京都で意見交換を行ったと伺ってございます。

最後の報告です。口頭でございますが、村長が昨年から東京都に申し入れてきた年度内に航空路協議会を開催してほしいということにつきまして、日程が決まりまして、3月29日に小笠原航空路協議会が開催されるということになりました。

報告につきましては以上になります。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 今回の大きく変わったところというと、小笠原航空路調査費が4億9,000万円ということで、大体今までは1億円程度で推移した部分ですが、この調査の中で一番お金がかかっているのは、どういうものが予算を占めているのでしょうか。わかる範囲でお願いします。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） これにつきましては、各調査の経費について個別に聞いているわけではございません。色々お話を聞かせていただいた範囲でお答えさせていただきますが、やはり大きな経費が掛かるところは、安全性の検証調査、それから地形、ボーリングですね、ボーリングの調査、地質の調査、それから気象観測・波浪調査、そのあたりが予算の大きな部分を占めると伺ってございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） この中で新しくやる調査というのは、以前もやった調査なのか、すべて新しくやる調査なのか、そこはどうなのでしょう。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 先ほどの報告で申し上げた、気象観測調査につきましては過去も行われていると理解しております。それ以外につきましては正確なところは

聞きしていませんが、私ども村で把握している過去の状況からした時に、先ほど申し上げたものはほとんど新たに行われるというふうに認識しております。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） これをみると、おそらく地質調査、ボーリング調査に一番お金がかかってくるのではないかという感じがします。海域、陸域というご説明をいただきました。海域ボーリング調査というのはかなり大変な調査だと思うのですが、飛行場、埋め立てとかで、辺野古ではかなり色々もめているのですが、ボーリング調査をやるというときに、かなり沖縄の県民の方たちはナーバスになったみたいですね。このボーリング調査、もう少し詳しくわかる部分があったら、海域はどのあたりを掘るのかとかそういうのは分かっているのかどうか聞きたいと思います。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 実務的に聞きしている範疇でお答えさせていただきますが、昨年知事が洲崎を前提に今後の検討を進めるという発言がございました。そのことを踏まえて、それ以前から我々実務者も含めて洲崎を前提に色々な検討をしてきております。検討してきた成果というのはまだまとまっておられませんけれども、今まで検討してきた、たとえば滑走路の長さであったり、海に出る部分はどうするんだ、だとか、色々まだ決まっていないところが多いのですが、いずれ洲崎を前提とした時にそもそも洲崎に滑走路を設置すると言った時に地盤的に大丈夫かですとか、あるいは海に滑走路が出るといふことの案を踏まえたときに、海の中の地形はどうなっていますかですとか、そういった基礎的な状況がまだちゃんと調査されていない。そういった調査を来年度行いまして、しっかりそういったデータをもとに裏づけるに使う上で、今後の検討を具体的に行っていくというような扱いの調査と聞いております。いずれは洲崎で空港施設をどんな形であれつくるといった際は必要となる基礎的な調査というふうに我々は理解しているところでございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今回の質疑の中で、私疑念を抱くのですが、この委員会は小笠原航空路開設推進特別委員会ですよね、この表示のとおりですよ。そして要望をしてきたなかで新たに東京都が予算を付けていただいた、今計上して東京都で議論をしております。この予算が認められるかどうかというのは、認められないとこの予算案が成立するわけではありませんから、その中で今の質疑はややもすると、調査の中身に対して疑義を抱いている

かのように受け取られないか、また本来村議会の中でこの予算の中身について果たして議論ができるものなのかどうかということに疑念を抱きました。ナーバスなことをごさいますので、前向きな推進のための議論になるように、その辺の仕切りをぜひ委員長にご配慮いただきたいとお願いを申し上げます。

○委員長（一木重夫君） はい。先日、2月に委員会の懇談会を開きました。その中でそれぞれの委員の航空路に対しての思いを聞きました。その中には海を埋め立てるのだったら反対という航空路賛成の人もいますし、いや、1,200メートルでもやるべきだという所での航空路賛成という方もいらっしゃいます。我々委員会の一致している意見は、航空路を造ることに対しては賛成ということなんです。ただその中で、滑走路がすごく長ければ反対だよと言う委員もいますので、そういう前提での本委員会となっております。

村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私は疑義ではないんです。この4年間、私を含め、議会の皆さんで、推進をお願いしてきた時に、そのような条件を付けてきましたか。今まで付けてこなかったものを、その仕切りをきちっとしないまま、そういう議論を急に持ってくるというのは、昨日から私が申し上げています、東京都だけではなくこのことでお世話になっております各方面との信頼関係が崩れることだと思っているんです。ですから、この委員会を始める前に、過去はそういうふうに東京都に要望してきたけれども、この委員会の中でそれは棚に上げて、それぞれの議論、言いたいことを言っているんだというふうな公的な意味で仕切りがあれば、そのことで私、疑念を抱かないし、ここでそういうような発言をしないのですが、今まで埋め立てはだめとか、1,200メートルがいいとか悪いとかで東京都に議会も我々と一緒に要望してきたんでしょうか。違いますよね。少なくともその土俵の上で議論をしなくては。土俵を変えるのだったら変えるという手続きをきちっとしていただかないと、まずいのではないのでしょうか。私はそう思います。そのことを心配しているのです。

○委員長（一木重夫君） 村議会としてまず航空路で決めていることは確か11年前だと覚えているんですけども、民生安定の航空路を、飛行場を洲崎につくるという所では我々は一一致した意見を持っておりますけれど、それ以上のものはまだ委員会としても議会としても持っていません。この間の航空路の懇談会で、ではその一致した意見を持とうかという話しをしたのですが、今この改選の前に委員会としての一致した意見を何か持とうというのは得策ではないという結論に達しました。この場では航空路開設推進に対してはみんな賛成となるんですよ。その中での賛成、反対が当然あってしかりだと私は思っております。

村長、森下君。

○村長（森下一男君）　すでにこの委員会の中でよく議論されたということを私今初めて聞きましたので、私は私の懸念を申し上げたものでございまして、委員会の運営に口をはさむつもりはございませんので、誤解なきようお願い申し上げます。

○委員長（一木重夫君）　ありがとうございます。その他ございませんか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君）　委員長の説明を聞いていると、この前確かに委員懇談会で各委員の話聞いた、それは、入り口はひとつで、その入り口をくぐって皆さん委員になられたわけです。言葉で言うと推進特別委員会、推進を前提にやっているわけです。推進というのはいつも言っているように都営空港、事業主体が東京都、東京都が協力してくれない限りできない空港なんです。前回の委員会でも、洲崎案の一部の部分が説明され、一部の委員がそういう部分にはなかなか協力できないということでしたが、それは表に出すべき話ではないと思っている。私が委員長にお願いしたいのは、委員が同じ方向性を持っていくのは当然のことながら、考え方も同じ方向性を持っていくと、その中で違った意見が出た場合は、これは委員会の役目を果たさないから、その時は正副委員長の権限で委員会を開いて調整しなさいよと。今まであなたがやってこなかったことを私は言っているんですよ。その結果、委員長も必要だと思って開いたわけでしょ。この委員会は基本的には推進するためにのみ存在していると思っている。途中、東京都の案がいろいろ出てきてそれに対してやっぱりいろいろな考えを持つ人も出てきます。そのときは表に出る前に委員会でそれを取りまとめるのが、委員会の役目であると思う。今委員長が言ったことは、東京で開いた委員懇談会で、そういう形で色々な意見が出てきたと。委員長の仕切りのもと、何のわだかまりもない意見を、それぞれの思いを話したわけだから、この場で言われると困る。それは基本的な委員会のあり方から外れていると思う。この航空路を進めていく経緯で色々な形で意見が違うところが出てくる。それをのおのおの言っていたら何のための委員会だかわからないだろう。

そういう意見が出るたびに必要があれば調整して、いい方向に持っていくようにしましょうよ。それが欠けているからみなさん、色々な意見が出て来てしまうわけですよ。私が言うのは推進特別委員会、日本語をちゃんと理解できていれば、とりあえず推進するために一生懸命東京都にお願いしましょう、進めてもらいましょう。東京都から色々な案が出てくる。案を聞いたなかで委員会として問題点がある場合には委員会を招集して、それぞれ

の意見を聞きながら、ではこれにはどう取り組もうか、その案の部分で色々な形で色々な意見が出てきたら、これはもう委員会として成り立たない。推進するために努力するのが委員会だと思っているから。そこで問題が発生した部分は、表に出ない形でまとめていくのが委員会だし、私は正副委員長の役目だと思っている。委員長の話を聞いていると、東京で話し合った時に好き勝手に委員が言った。それをそのまま尊重しましょうというのであると、それは私の意図するところではない。やはりあくまでも東京都にお願いしていく都営空港の中で、問題が出てくるその都度、委員会の中で調整していこう。表に出る委員会では空港を何とかつくってくださいと東京都にお願いをしていく、それが委員会の使命だと思っています。私この前も言ったけれども、この小笠原航空路開設推進特別委員会に入るということは本来であれば推進のための委員会だから、航空路に疑問を持っている人、一緒に活動できない人は、私は入るのはどうかなという部分はありました。ただみんなが入っているから流されて入ろう、今まではルールが無い中で、みんなで航空路に取り組んでいこうという形で始まった経緯もあったので、その辺のルール作りが少し欠けていた部分もあったかもわからないけれども、とにかく東京都に航空路を開設するための道筋を作ってもらって、途中で出てくる問題点に関しては、委員会でちゃんと調整しながら進めていく、そういう形だと私は思っていました。委員長の意見と少し違う。私はこれに関して、委員長、できれば議長にも聞いてほしい。議長の意見を。

○委員長（一木重夫君） 池田 望議長。ありますか。

○議長（池田 望君） 長々と杉田委員の講釈を聞いておりました。

先ほど委員長言われましたが、実際東京で皆さんとお話し合いをしました。その時に私の方は、簡単にできるものをしていけばこんなに苦労しないのですが、国も、また東京都は特に皆さんご苦労されて、何とか小笠原に飛行場を整備し、空の足を確保してあげなければとずっと努力されているんですよ。それでもなかなか完成できないのがこの難しい小笠原空港なんです。その中で、村長が先ほどおっしゃっていましたが、大きな信頼関係を構築しながらこの離島である小笠原に、村民のために何とか航空路を整備しようという、国や東京都、村の一致した思いが、今一つずつなんとか難しい工事をしながら、今結果を求めて頑張っているという状況です。ですからあの時も言いましたが、それでもいらない人はいらないと言えればいい。しかし民主主義ですから、そこは、多くの村民が求めているものですから、その時は賛成してくださいねと、そういう話をしたと思うんですが、皆さんがどう思っていらっしゃるか、長いことこの問題に取り掛かってやってき

ましたが、本当に難しいんだなというのは、重々わかっているんです。その中でやっぱり一つ一つ解決しながらここまで来たということだけは皆さんに知っていただきたい。ですからどうぞ村長の姿勢で進めて行っていただきたいと、そういうふうに思っています。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私が心配したのはどうも方向がずれてしまったので、私の懸念をもう一度お伝えします。清水副委員長の質問で、今東京都で予算案を審議していて、その予算案の中で実務方がわかるだけのことはお伝えをしました。その予算の、具体的にボーリングがどうか、辺野古がどうかということが、今審議中の予算案に対してですよ、あたかも村の中で予算案の審議をしているような質疑は、これは疑念を呼ぶのではないのでしょうかと申し上げているんです。手続き上誰が考えてもそうではないでしょうか。村議会議員としても、村長としても、この議会のあり方とか、そこは逸脱してはならないと思っています。ですから、最初から議論があって、そういう予算も通さないというような意見がもし個人的にあって、航空路、そういうことに反対だというのならば、この特別委員会の趣旨とは違ってくると思います、ということを申し述べたうえで、また今審議中の予算案の中身に関することをここで論じるのはいかがなものかという懸念を抱いた主旨でして、皆さんの議論の中に私が余分なことを言ってそのような議論を呼び起こしてしまったのかもしれませんが、その懸念についてはよろしくお取り扱いをしていただきたいということでございます。もし委員長として、いや、そんなことは関係ないよということでしたならば、そのような仕切りをしていただければ、それは結構なことでございます。

○委員長（一木重夫君） これはあくまでも東京都の予算案の段階でございまして、清水副委員長の、答えられる範囲でのという前提で質問されているので、それで答えられないのであれば、東京都の予算なので回答できませんという答えでいいのではないのでしょうかと、質問を受けました。小笠原航空路開設推進特別委員会の趣旨に反するのではないかという部分については、繰り返しになりますが、本委員会では航空路を推進するというので、その航空路案、東京都はまだ3つ持っています。洲崎ではない案もまだ持っているんですよ。それに対して、洲崎を使わないで飛行艇でやるべきだという意見は出ても然りです、それは。今の東京都案の中で、洲崎で1,000メートル以下、これについて賛成か反対かということは、われわれは決めていないので。1,000メートル以下の案でやっていく委員会にするんだ、と言うのだったら、またここでみんなで話し合っただけを決を諮らないといけないし。でもそういうことは、もう改選も近いのでやめようと、そういう話になったと思

います。それぞれの委員のご意見は各委員の皆さん尊重していただきたいと、委員長の立場から思っております。

池田 望議長。

○議長（池田 望君） 委員長の思いはわかりましたが、去年の7月の航空路協議会の中で、3案あって、飛行艇という部分も、消してはいないんですけども、一応洲崎を中心に考えているというように決まったんです。今の委員長の言い方だとまだ盛り返してあるみたいな言い方なんだけれども、ひとつの進め方としては、計画の中では、洲崎地域をどのようにしていこうかということを中心に、ほかの案も取ってはおくけれど、それをメインにということを決まっているということはここで言わせていただきます。

○委員長（一木重夫君） おっしゃるとおりでございます。申し訳ありません。誤解のある言い方でした。

杉田委員。

○委員（杉田一男君） 私はね、村長と清水副委員長の質疑をうんぬんではなくて、私があえて言ったのは、委員長の発言は、時としてこの小笠原航空路開設推進特別委員会をまとめたような形で聞こえるけれど、私は一人の委員として、そこまであなたに任せていないよという部分もあるので、言葉を選んで発言してほしいという思いを込めて言ったんです。あくまでも正副委員長は会をまとめる立場だから。総意として自分の受けた感じをそのまま自分の言葉で言ってもらってしまうと、聞く人はもしかしたら委員会の総意かなと勘違いする人もいると思うので、その辺は今後ともぜひ注意してほしいと思います。それだけです。

○委員長（一木重夫君） 特に委員長、私の場合はそこだと考えております。

副委員長、清水良一君。

○副委員長（清水良一君） 小笠原航空路開設推進特別委員会ということで、4年前に議員にさせてもらいまして、はっきり言って私、洲崎のそういう案に対してあまり賛成できないので、この委員会に入る段になって副委員長という役柄をいただくについてはお断りしようと思ったのですが、その時にはまだ具体的な案が決まっていなかった。そしてその時は飛行艇の案もあるし、一木委員長が一生懸命研究されているティルトローター機や、またヘリコプターなど、今の洲崎の中でなんとかできるものも検討していると。私としてはそういうものであれば賛同して、そして本当にできたときに島民皆が「ああよかった」と思えるようなものができればということで、微力ではありますが何か意見を言っていこうと

思ってきました。もしほかの議員も、村長が言われるように、1,000メートルに限って、小笠原1,000メートルの飛行場開設委員会であるならば、私が入る余地がない分だと思います。ただ小笠原航空路開設推進特別委員会、前は小笠原空港開設推進特別委員会から途中で変えて、あくまでも航空路を何とかしようという委員会だと思ひまして、これからは意見を言っていこうと思ひておりました。今後選挙もありますので、これからどうなっていくということは私もわかりませんが、もしそういうことであれば、この委員会に私がいなくてもいいかなというふうになるかもしれません。今の委員会にとって少しでも前に進めるような形で私としてもしたいと思ひておりました。お騒がせしました。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私は、この委員会の中で何度も言っていますように、今東京都は調査をして、これから案を作るんです。どういう案になるかわかりません。その時に意見はどなたも言えるということをお願いしておりました。清水副委員長が村民アンケートを取ったらどうかとか、そういう発言があったときにもそういうお話をさせていただきました。パブリックインボルブメントというものがあるんです。今調査をして、東京都がこれから東京都なりの案を出そうという前に、その予算案について云々というのはこの委員会のあり方にふさわしくないのではないかとお願いを申し上げたつもりでございます。ですから今のことについても、清水議員がこの委員会にいるのがふさわしいとかふさわしくないということは委員会の中、またはご自身で判断していただければいいと思ひますが、これから調査費を何とか認めていただいて、東京都は東京都なりに航空路の案を作るその前段階で先ほどのような質問、特に辺野古というのがどういうふうに関係あるのかわかりませんが、それはちょっと違う趣旨になってしまうのではないかと懸念を先ほどから申し上げているところでございます。その辺は誤解をなさらないようお願いいたします。

○委員長（一木重夫君） 了解しました。改選も近いので委員会としてこういう一定の何か決議を取って方向性をというのは今この場では避けたいと思ひますので、各委員の意見を尊重してください。お願いします。

その他、ございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

---

◎その他

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第2、その他事項で何かございますか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 委員長の方から一点だけお伺いします。今月の3月7日にティルトローター機のAW609の日本での導入の調査、研究を、中日本航空がレオナルド社から依頼を受けて実施するというニュース報道がございました。レオナルド社はご承知のように、小笠原でこのAW609で航空路をやりたいと社として提案をしております。こういうニュースがあったんですけれども、村長の所感をお聞かせください。

村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今日資料をいただいたこのこと自体は、今まで私のアンテナには引っかかっておりませんでしたので、ああ、こういうふうになってきたかということとまず所感として持っております。東京都は各種色々な機材について調査してきていまして、具体的にあれだこれだというのは、漏れ伝わってくるなかには、ATRですとかこのAWなどもきていましたが、正式には発表がありませんので私の口からは、その点については断定的なことは言えませんが、おそらく東京都の機材調査の中に入っているものだと思っておりますので、メーカー等がこういう動きに出るということは、ある意味私どもにとっては追い風であるのだろうと思っておりますのでございます。

○委員長（一木重夫君） ありがとうございます。その他何かございますか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

---

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第3、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の事件調査のために閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これ

にご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長 (一木重夫君) 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることになりました。

---

◎閉会の宣告

○委員長 (一木重夫君) お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長 (一木重夫君) 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、小笠原航空路開設推進特別委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

(午後2時43分)